

越雪
涼月、相撲の奇集、怒浩

涼月之志ん 裕惟子 幽翠

涼月、水之宮の杜長
土子



寒くば水之つらむ杜長

土子

凍むらゑん 裕惟子 幽翠

越雪 凍油の相撲の奇し集む 怒浩

凍三白とあす月の夜 土

松茸沼地の領分に過待 幽

凍のいと天子を思ふ 怒

越雪 凍のよき并責む 土

十の暇に細工取む 幽

凍の顔とて思ふ 怒

十^二の^三暇^二入^一細^二工^一取^二色^一幽

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あ^まり^の顔^二と^一怒^二に^一泪^二み^一怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

いづみとあす
石巻のま
土

同
あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

あまのこころを満ちてゆく
怒

越雪
河をさへつらりと舟をす
土

同庚月
舟をさへつらりと舟をす
土

舟の舵を手に普賢取を
怒

穽とよまふ事と喰定
土

月言はるる跡の長月
土

舟をさへつらりと舟をす
怒

阿彌陀堂へ後舟跡
土

舟をさへつらりと舟をす
怒

舟をさへつらりと舟をす
怒

舟をさへつらりと舟をす
土

7
此は...の所らまは家怒

○自利は桶の柄と強ひて土

越雪
花出娘の殿女りく為

在師の言後の着と娘怒

由の道らして親赤うと

引馬の尻に...怒

○茶下...の草為

女名
乙

馬七
乙

長角



卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十

女
子

子
七

長句



幽翠
三字二長二
二字一凡三

倍二十八點

土子
二字三凡三
長二

今

怒浩
二字一凡一
長三

倍二十三點

樓本氏

其角

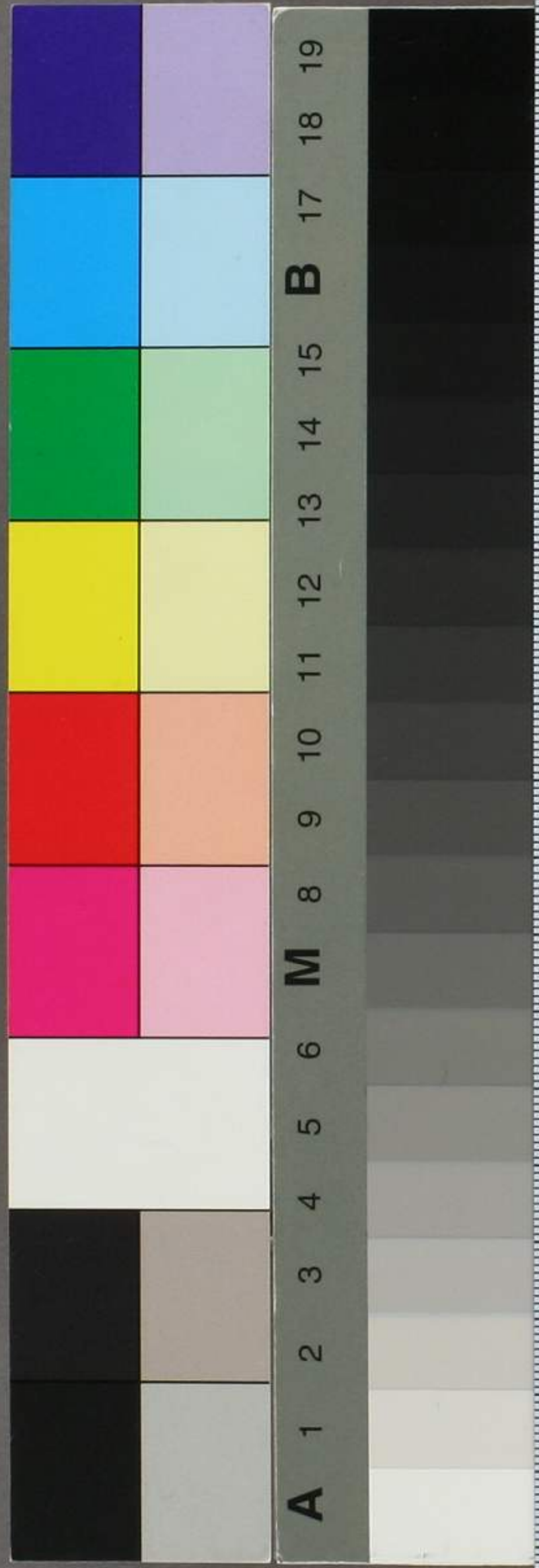
室井 室晉齋 号晋子 住茅場町

宝永四年亥二月廿日卒 有墳二本樓上行寺

晋日其角撰奇仙

特別
~ 5
5664

明和文園形
屋小石觀



特別
~5
5664